市民の皆様へ

2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています!

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。 あなたの考える2030年の稲城の将来像について、お聞かせください。

希望するグループや団体との懇談の席を設け、市職員がお話を伺 います。是非お申込みください。

家 市内在住・在勤・在学の5人以上のグループ・団体

必要事項

1)希望日時 ②開催会場

④電話番号 ③代表者住所•氏名

申 込 先 市役所 5 階 企画政策課窓口

電話 042-378-2111、FAX 042-377-4781

メール chou kei5@city.inagi.lg.ip

-ムページからのご提案は

https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgibin/form eng/formmail.cgi?d=chouki

個別の返答はいたしませんので、

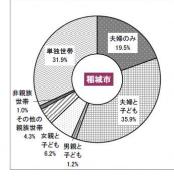


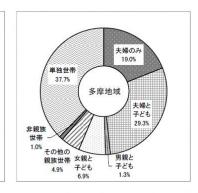
あらかじめ ご了承ください。

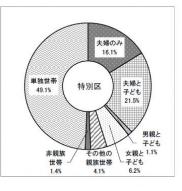
稲城市ちょっとメモ

家族類型の世帯割合は?

稲城市•多摩地 域・特別区の家族類 型の世帯割合を比 較すると、稲城市は 「夫婦と子ども」の







割合が35.9%と最も高く、「単独世帯」は31.9%と最も低くなっています。その他の世帯割合には大き 『多摩地域データブック (H29年度)』 な差はありません。

これからの開催予定

第12回 令和元年5月31日(金)

時間:19:00から※概ね2時間程度を予定しています。

会場:地域振興プラザ4階 大会議室

• 市民意見公募結果について確認し、最終的なまとめに向けた討議をします。



2030年の稲城を描く

発行 稲城市

編集 企画部 企画政策課 長期総合計画担当 ●206-8601 稲城市東長沼 2111

☎042-378-2111(代表) 内線532

e-mail chou_kei5@city.inagi.lg.jp

稲城市長期総合計画

2030年の稲城を描 市民会議 4月19日開催

第11回 市民会議を開催しました

4月19日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第11回を開催しました。 第10回での討議結果に基づき見直した「市民会議提言書(素案)」について、そのまとめ方、表現の 仕方などを全員で話し合い、「市民会議提言書(案)」として出来上がりました。

今後「市民会議提言書(案)」は市民意見公募に付され、市民から出された意見は第12回市民会議で 検討され、最終案とする予定です。



- ①第 10 回市民会議協議に基づく修正案を作成し、メンバーに事前送付。
- ②第11回市民会議開催前に、メンバーから事前に意見の提出。
- ③第11回市民会議では、事前意見を中心に協議・検討し、修正を承認。

『市民会議提言書(案)』がまとまりました!

提言書(素案)への事前意見

- ○市役所と JR 稲城長沼駅を結ぶ稲城銀座とでも呼ば れるようなハイカラな街路の新設が必要。広い歩道 と並木で区分された車道があって、両側におしゃれ な店舗が並び、赤バスが運行を始めてくれれば最高。
- ○高齢者=サポートが必要な人という前提ではなく、 健康な高齢者=地域に有益な人材というような視 点での記載も欲しい。
- ○高齢者グループ+ボランティアの構図になってい る印象が強いが、助け合い(共助)の中で生き生き と暮らせるイメージとなると良い。繋がりや土いじ りなどで健康寿命が伸びるといった話もよく聞く。 コミュニティ、農、緑といった他のテーマとも通じ ることなので、その辺りも入れられるとなお良い。
- ○「稲城の魅力を活用した観光振興の取り組みが期待 されます。さらに観光の促進により交流人口や関係 人口が増え、」という部分に違和感がある。観光振 興については賛否両論あったので、そういった意見 にも配慮して貰いたい。稲城の魅力の発信によって 関係人口や定住人口が増え地域経済が活性化する ことは期待したいけれども、観光振興とはちょっと 違うものと考えている。シビックプライドによって 市内に稲城の魅力が伝わって多くの人が稲城に足 を運んで活動したり移り住んだりして、地域経済が 活性される未来を期待したい。
- 〇農に健康寿命を伸ばす効果も期待するといった文言 があると良い。「こくベジの取り組みを参考に」とあ るが、多摩地域にはこくベジ以外にも参考になる事 例がいくつもある。民間事業による成功事例もある ので固定の取り組みではなく、近隣の都市農業の取 り組みを参考にといった表現の方が良いのでは。
- 〇「ほどよく田舎」は梨やぶどうでさらに農業の実態 について詳しく説明されているけれども、「ほどよ く都会」はあまり具体策がないようで気になる。
- ○全体的にボランティアという表現がやはり気にな る。無償の活動というイメージがどうしても付きま とってしまうが、自発的な活動というイメージで捉 えたとしても事業として確立できるならその方が 持続可能ではないかと思う。現在は税金投入やボラ ンティア依存でしか回せない課題に対しても、地域 に根ざした多様な仕事やチャレンジが生まれるこ とで解決できることを期待したい。
- 〇シビックプライドを中心に据えて 3 つのまちの姿 を提案するところは話し合いの経緯からとてもし っくりくると感じるが、後半になるにつれてシビッ クプライドをイメージさせるような表現が薄れて いっているような印象がある。
- 〇シビックプライドについてはあくまでも 2030 年 の稲城のまちの姿になるための手段の一つと理解 している。3本の柱の中心に来るのに非常に違和感 がある。キーワードの一つとする、10 の姿の個別 記載部分に載せる等変更を。
- ○できる限り市民の賛同を得られ、小中学生にとって もわかりやすい、イメージしやすい 2030 年の稲城 を描くため、表紙裏のページが一番重要だと思う。

2030年の稲城を描く市民会議 提言書

案

2019 (平成31) 年5月

2030年の稲城を描く市民会議

■「事前意見」に基づく協議

■提言書の修正検討

2030年の稲城 1

市民の力が活躍するまち

良好な住環境に魅力を感じ、稲城市では、今日でも市民が増え続けています。 こうした中で、シビックプライド(自分たちで地域を良くしていこうという市民 の誇り)の精神を持つ市民が増え、誰もが楽しく快適に暮らせる稲城市に自分達 さしていこうという積極的な活動が見られます。

稲城市の都市としての活力を維持し、さらに発展させていくためには、市民同 土が働きかけ、つながりを深めるとともに、行政とも協働して、誰もが活躍し 輝くことの出来るまちとなることを望みます。

2030年の稲城 2

コミュニティが活きるまち

稲城市には、互いにつながり合い、助け合う温かい人々がいて、そうした人々 うつくる様々なコミュニティが形成されています。 2030 年に向けては、人やコミュニティの新たなつながりによって、私たちの周

りにある様々な課題を改善出来るのではないかと考えています。 これまでのつながりを大切に守っていくとともに、誰もが世代や立場を超えて、

積極的につながり合える機会や環境が充実することにより、これからも稲城市に 受着を持ち、自ら関わり、住み続けたいと思えるまちとなることを望みます。

2030年の稲城 3 ほどよく田舎 ほどよく都会なまち

総被市は、充実した都市機能や都市基盤が整備され、都市としての利便性を享 受できる一方で、豊かな緑や「稲城の梨」に代表される自然の恵みを身近に感じ ることのできる。田舎的な鎮いの環境にも囲まれています。 快適に暮らせるほどよい田舎感、ほどよい都会感に稲城らしさが実現され、子

ども達も含め多くの市民は、居心地の良さを感じています。

今後も「今を続ける努力」を行い、このほどよいバランス感をもった暮らしや すいまちを維持していくとともに、更により良いまちとなることを望みます。

市民意見公募をします!(5/1~5/17)

市民会議(第12回)で市民からのご意見を検討し、 最終案としての確定に向けた協議を行ないます!

2030年の稲城 10のまちを通して描く3つのまちの姿

市民の力が 活躍するまち

自分でつくる つながり合うまち 嘉齢者が生き生きと暮らせるまち 子育てしやすいまち

仕事も生活もできるまち 安心して快適に暮らせるまち もっと魅力を発信するまち 縁とふれ合えるまち 膜に親しむまち 誰もがずっと住んでいたいまち

コミュニティが 活きるまち

ほどよく田舎 ほどよく都会なまち

シビックプライド

10 の暮らしたいまちを通して描いた 2030 年の3 つのまちの姿。

そのまちに暮らす人々が持ち、まちを支え、まちを形作っているもの、シビックプライド。 このまちに住む私たちが、このまちに関わり、このまちを良くしていこうという意識。

私たち自身がまちを形作っているという誇りを持って住み続けたい、そうした市民が一人 でも多く暮らす稲城を、私たち市民と行政とがいっしょに目指していきたい。

私たち市民が、シビックプライドを持ってまちに関わり、作り上げていく 2030 年の稲地

「2030年の総域を描く市民会議

誰もが活躍し輝けるまち 2030年0程端の長 ② 仕事も生活もできるまち りその能力を返用出来ていない市民が多いように思われます。 リーランスで活動する市民も増えており、小規模に動く場や、今までにない動 出された、最かやすい課業づくりを提来れています。 ことを指まえ、地域の世代間交流も活用し、仕事も生活もできる地域づくりを イルにあった働き方 2030年の程識の表 3 もっと魅力を発信するまち 1) 市田の勢力 福城の良さである。"ほどよく田舎でほどよく都会"なまち。 福城市の推議や地域資源、福城市に住む人やそのライフスタイルなど、私たち市民自身も その良さを十分理解していないことから、市全体としての情報発信力が弱く、その独化を 福祉市の選挙や地域資源、 指域用に住むんやセツラック・フィールー その良きを十分理解していないことから、市会体としての情報発復力が弱く、その強化を 図ることが必要です。 効果的な情報発度により経域の良さを再認識してもらい、並分の住むまちとしての誇り /広がっていくような取締みが現時されます。 また、地域資富を発謝し、魅力を育て、その魅力を私たち市民も含め、市外の人とも共 なし、発信していくことが期出されます。 ないと、他の人に発信することはできませ 分分のいるこの地域を良くしていこうという 1日一人ひとりが唱破の魅力を背影難し、内 いことが重要です。 ふある事業者や行政心影響し発信することに っていくことも期待されます。 2030年0時端の長年 自分でつくる つながり合うまち 程域市では、住む人が増え続けているものの、人と人とのほどよい場難感。ほどよい近 所付き合いがあり、コミュニケーションの場も包重であると考えます。 地域型・ミュニティ ・ケラーマ型コミュニティなど収集のコミュニティと併せ、新たなコミュニティが活動に 点々出され無関をたていますが、今後はコミュニティが正いっ欠度し、つながりが広かっ 2030年の経済の長 Q 高齢者が生き生きと暮らせるまち 元気に生き生きと事らす薬勧者は、地域の活力となっています。その一方、薬動者の 関係入りとなる市民の中には、少なからず不安を抱える人もいます。そのため、自ら生き いを持って地域社会に参加していく「自助」や、隣近所のちょっとした助け合いである 少世代が交流し 生きと暮らせるま 子育てしやすいまち 関係の子ども連ば高州の人とのおいらつの、地域のイベント等を選して他域とのつな がりを指く信仰といます。 かた、子学では他は、環境は環境が多く、限数も集形を大いて子孝でしやすいと感じ でいます。しかし、環境から子学ではがようの子(が対象数とが、表別も人、助ける人、 あけるための子説、一名学ではいます。 ころした地域において、子賞でもしている人と、子賞できばれ、子学で支援したい人 かっながり、会性が大力学では他の子があるととを開始します。 また、子学でもしている人との子グでは他が表現となり、子賞でもしている人 また、子学でもしている人との子グでは他が表現となり、子賞でもしている人 2030年の経過の表 の 安心して快適に暮らせるまち 安心、快適の前提に安全が確保されていることが絶対であるとの視点から検証し、災害 への不安や防犯器・交通事故等への不安は、子ども適も含め、多くの市民が感じているも のの、提名の経域市の状況に、私たち市民は裁ね満足していると言えます。 2030年の程識の長 <u>多</u> 緑とふれ合えるまち (1) 安心なまち -国在、市内の小学をや中学生の縁に対する関心度は非常に高く、身近な縁に対する愛着 農に親しむまち

2030年の経済の表 ① 誰もがずっと住んでいたいまち 市民は、「ほどよく田舎でありつつも、ほどよく都会」である福城市に住み心地の良さを 感じています。私たち市民にとって、「こころのふるさと」であり、巣立った子どもたちに

財政は、旧名とく場合をかりつう。旧名とく番号とも、今島福間町に成りんの自力会と むています。私たち見にして、「こころからると」であり、違った子をもちに とってものるとであって歌しい。 この資料の分成化の計画を加かていくたかには、ここに成む様々な世代に歌しい・ 「面の原かり、紅葉剛社会に入っていくかでの何かの予定をかりはくファンドの大変があ まます。人人と人のでおりつもユニッチの情報をし、楽なしたの機能が抜するこ とには、子さらたちの展やりが広がると、難にとっても至か、学会な、信んでいたい まるとなるよう機能します。

1/1 かのさととして関れるまち 類似には自然や優立ところが死山あり、子育でしやすい環境です。 等途時代、最初時代など、それぞれのライフステージにむじた 伝わやすいまちを開中でるとともに、職能を心のよるまと、自分のよるまと、干どもの よるさととして、別れるようなまちを開中します。ほどよく日舎で、自然と縁が振るま を発明します。

(1) ふるさととして誇れるまち

(金融の中で出た業業)
(日間の中で出た業業)
(日間の場合でいるま)(番組)、大丸消をなど自然が業期
(の名成の時間が出た。(最近まかもちも)
(ロビン・1機のあり。 金巻して立つかり)(第7人制度の人目機能の傾称)。様々や心発展
(いく複数で「変わらない」直を呼が出た。

いった間隔をあります。また。最後の中でも、所認が意意を高級の高度であり、原体の 環境にしないたが最からます。 一方、福祉の加速が行きがよく、機能が加い対するが考えや中学立の対策をは本際に 助する機能が戻し、より整要が探えるとを説明することもに、期の間域、関係の故 がイイーが定とり、自己をおしていることを開発します。 ・他は、他のでは、自己をはないます。 ・他の、私のでは、自己をはないます。 ・他の、私のでは、一般のでは、 ・他の、本のでは、 ・他の、 ・他の、本のでは、 ・他の、 ・他の ・他

農地は市街地の貴重な穀地であるだけでなく、鳥と人とのふれあいの場など多様な価値

温城市では、農家数は少なく小坂県経営の特徴の中で、農地の保全・経営継続の困難と った課題もあります。また、農産物の中でも、野菜は少量多品種の生産であり、商業化

(1) 真と人が置づくまち 異数は何能にとって親しかめら終でもあります。非常に異地が保持されていること を開わします。ま、亡者に他れることで観視券が延伸するといった無ち、原符さ おます。平応でも参加するも、最繁複弊や、子ども確か上によれること等を着して、異 業別と与者交換のとなることも知る。 総がより寄在がありとなることも指揮します。 (機能や中性化性等) の影響機能無数を加えなを受けた。動地提出的差。 角面シストランの回答 の形式を開発したのできる意思と、他可能から指列。 (協作的) などの施進 (出手がて、ドビもが最高機能性なるようが信頼からくり (関係をの実施的としての模型 の関係を特別というでは、となった。) (関係をの実施的としての模型 の関係を特別というでは、となった。)